

CONTENTS

- ① イベント
- ② コラム
- ③ ご案内

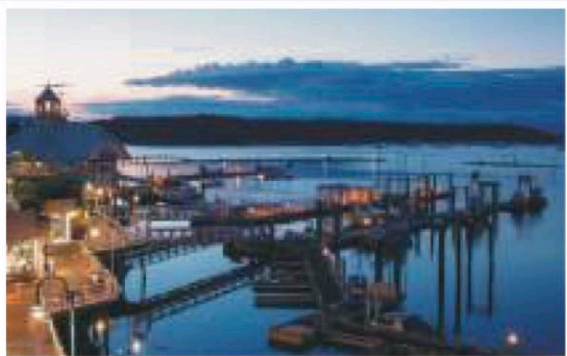
ナナイモ市の日系カナダ人協会 セブン・ポテトの会と オンライン交流会



▲当日の様子

6月8日(水)、姉妹・友好都市交流事業チームとナナイモ市の日系カナダ人協会セブン・ポテトの会が初めて交流会を開催し、国際交流センタースタッフ含む15名がカナダの4名とZoom上で、それぞれの街の様子や生活の紹介、今後の両市の交流について、カジュアルな意見交換をしました。

旧岩槻市と26年前に繋がったナナイモ市は、カナダブリティッシュコロンビア州のバンクーバー島にあり、州都ビクトリアに次ぐ島では2番目の人口約10万人規模(2021年)の風光明媚な港町。豊かな自然と過ごしやすい気候、アクセスの良さ、娯楽や文化的なイベントの豊富さで、住むにも働くにも、休暇を楽しむ場所としても人気があり、日本人450人を含め、多くの日系人が暮らしています。



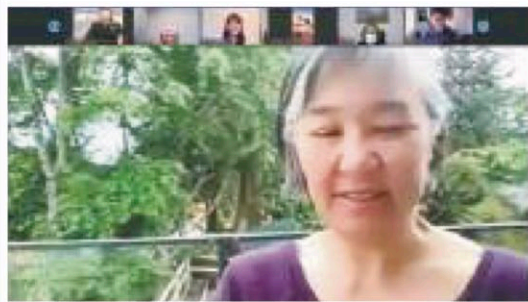
▲ハーバータ景
出典 <https://tourismnanaimo.com>

交流会ではさいたま市のPR映像を鑑賞、感想や質問を受けました。



▲さいたま市の象徴的なスポットやイベントを紹介するPR動画の鑑賞

ナナイモの人達が夕暮れ時の周辺の風景を中継で紹介する場面では、参加者たちから水辺や森に近接する和やかな雰囲気に感嘆の声があがり、「実際に行ってみたいね」と笑顔が広がりました。



▲テラスから見える風景を背に話す
タミ・ヒラサワさん(セブン・ポテトの会代表)

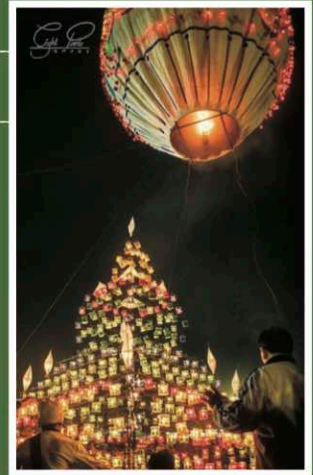
カナダ側を代表し、タミ・ヒラサワさんから、市が実施したナナイモさくらまつりへの寄付に対する感謝の言葉と、協会が担う役割について説明を聞きました。ケイコ・リムシューさんからは、ナナイモには炭鉱が盛んだった頃に日本からも多くの入植者があり、国の発展に大きく貢献した功績がある一方、第二次大戦中は日系人も深刻な人種差別を受けたことを踏まえ、今後、現地の日系人関連の歴史的事実や想いを両市民で共に学び、友好を深めていけないかという提案がありました。街に100本の桜を植えるための募金活動にも加わって欲しいとも。当センターの事業チームは、「今後検討し、今回のような場を定期的に設けて相談しましょう」と返答、両市民が実際に関われる交流機会の実現に期待がかかります。

ミニ講座



>>> 「ミャンマーと日本」

ミニ講座のリアル開催が復活



▲熱気球祭り

コロナ禍で2年間中断していた講座が、聴講者20名に限定し7月9日(土)1時から感染防止対策を施した上で行われました。講師は、ミャンマーのタウンジー出身のレーレートウンさん(埼玉大学院情報工学科博士課程1年)。ミャンマーは日本国土の1.8倍、人口5千万人強、仏教が90%の国。タウンジーはヤンゴン北方635kmのミャンマー5番目の大都市で、アジアクリーン観光都市賞3回受賞し、熱気球祭りで有名。また新年を迎える水祭りや、寺院に女人立入り禁止の話。日本と違う挨拶の仕方、褒め方や愛の告白方法の話。日本人の曖昧な言い方が理解しにくいと率直な感想もありました。

質問コーナーでは、好きな日本語は「大丈夫」。旅行が大好きで、江ノ島に2回行かれたそうです。日本の納豆をキムチ・生卵と混ぜて食べるのが好み。ミャンマーのお薦めの食べ物はモンリンマヤー(たこ焼き風)。「ありがとうございます」は、「ジェイズウティンパーティ」と言う。通貨はチャット(1円=13チャット)。第2回目があれば、皆参加したいと興味を持たせる講座でした。



▲講師レーレートウンさん、降雪の埼玉構内で



▲当日の講座の様子

マルタ共和国



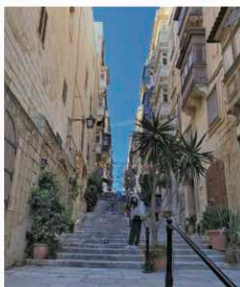
2022年2月から1か月間、マルタ共和国に短期語学留学を経験した大学3年生の中島彩乃さんのお話です。

短期留学体験

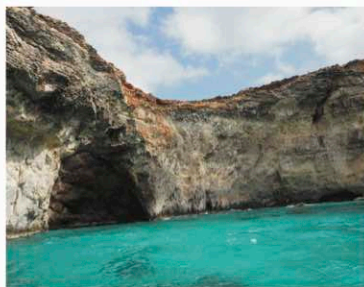
非常に短期間の留学だったが、今後の大事な転換点になると確信できるくらい、大きな体験になった。

まず、留学を決めた経緯は、私が大学入学した年にコロナが広がり、全てオンラインで、毎日毎日パソコンとにらめっこの生活から抜け出したかった。そして、将来のことを考え始めると、自分が何をやりたいのか分からなかった。コロナも2年目で緩和されてきたので、そうだ、海外に行ってみようと思いきや、入国できる国、マルタを見つけた。

マルタは、イタリアの南にある小さな島国で、島の一部が世界遺産となっていてどこを見渡しても石造りのおしゃれな街だ。周りの海はエメラルドグリーンでそれはもう綺麗。マ



▲街全体が世界遺産のマルタの首都バレッタ



▲美しい青色の海 コミノ島

ルタでの日々は、言葉で表すと、もう本当に最高!!の一言に尽きる。散歩していたら、マルタ人に話しかけられて、一緒に散歩してカフェに入ったり、韓国人ルームメイトと恋バナをしたり、学校帰りにクラスメイトとジェラートを食べて、夕日を見に行ったり、マルタを観光しておしゃれな写真を撮ったり…。自分の英語も意外と通じて、向上したとは言えないが、話すことに抵抗がなくなり、自信はついたと感じる。平日の午前中は語学学校に通い、学校の寮(レジデンス)に滞在した。学校にも寮にも、ヨーロッパ、トルコ、韓国、コロンビアなど様々な国の幅広い年齢層の人たちがいて、みんな親切でフレンドリーだった。マルタ生活で一番楽しかったことは、寮の共用キッチンで、様々な国の人と一緒に料理を作って、みんなでご飯を囲んで、おしゃべりする。飾り気のない他愛もないことだけれど、今まで触れ合ったことのないバックグラウンドを持った人と話して、いかに自分が小さな世界の住民で、視野が狭かったのかと気づいた。



▲右側が中島さん

マルタ共和国について

イタリアの南、地中海に浮かぶ国、公用語はマルタ語と英語。ヨーロッパのリゾート地で治安が良く、リゾート感覚で英語を学ぶヨーロッパ出身の留学生が多い。最近は日本からも英語を学ぶ留学先として人気。



オンラインでできる国際交流 世界を知ろうコースミニ講座～アルゼンチン編～



8月7日(日)さいたま市とアルゼンチンを結んでユース向けミニ オンライン講座が開催されました。講師はアルゼンチン、メンドーサ在住のマリア・ソル・デバスさんです。ソルさんは2016年に国際交流基金日本語センターに長期研修生として来日、半年間北浦和研修センターに滞在していました。

今回の参加者は22名です。ソルさんは現在アルゼンチンで日本語教師として活動されています。アルゼンチンからの参加者はソルさんから日本語を学んでいる青年たちです。



▲オンラインで楽しくトーク

はじめにソルさんからアルゼンチンの自然や、文化、生活、仕事などのお話をお聞きし、その後双方向で活発なやり取りが行われました。人気のアニメのこと、早口言葉の教え合い、将来の夢の話などなど。最後にアルゼンチンの青年に「来日したらどこに行ってみたいですか」と質問したところ「是非さいたま市に行ってみたい」と答えが返ってきました。ソルさんはとても流暢な日本語を駆使し、難解な日本の小説も読まれています。教え子の皆さんの絶大な信頼を得ていることも頷けます。

さいたま市から約1万8千km離れたアルゼンチン、ソルさんの住むメンドーサはアンデス山脈の麓でワインの里としても知られています。ソルさんはその芳醇なワインのような豊かさを備え、アルゼンチンの大自然を思わせる懐の深い方でした。グラシアス!



▲アルゼンチンの日系人は5万人

Let's ボランティア

今回は小林良弘さんのお話です。
「喜寿過ぎて 出会い楽しむ ボランティア」

若い人との出会い、談笑は楽しいものです。それが外国人との交流ともなるとなおさらです。滅多に使わない豆頁(頭)を駆使し、身振り、手振り、汗だくになることも。

話が弾めば我が家へ招待したり、人生相談も。帰国すれば、メールのやり取り、贈り物の交換など。そして相手のお国へ招待されたり。でも、まだ相手の国へは行ってません。行ってみたい気持ちは十分ありますが。

もう7年ぐらい前ですか、日曜日の日本語教室に飛び込んで外国人との会話を楽しんだのがボランティア活動の始まりでした。そこではいつも先生が足りず、一人で3ないし4人を担当していたものでした。

このIECニュースの編集・発行や、北浦和でのセンター交流会の企画等に関わっていますが、いつ



▲小林リーダー(右端)のもと、輪投げゲーム準備完了

もつまずきながらもメンバーに助けられながらやっています。付き合いを大事にする方大歓迎です。センター交流会のゲームの作戦会議やIEC Newsの編集会議。各ボランティアの会合の席へ気軽に参加してみてください。スキルや気おくれは無用ですよ。



▲輪投げゲーム スタート



▲センター交流会で「ふるさと」合唱(左)

大好き! SAITAMA さいたま



魏 同塵さん(中国)

西安市から交換留学生として来日され、今は日本企業にお勤めの魏さんにお話を伺いました。

日本に来たのは、サブカルチャーとして日本語に興味を持ったのがきっかけとのこと。

日本に来て中国と大きく違っていたのは、お年寄りのイメージです。電車やバスで、席を譲ろうとすると、60歳くらいの方でも「私は大丈夫です」とお断りになる、これが一種のカルチャーショックで最初はとまどったそうです。

さいたま市の良いところは交通の利便性。電車やバス以外にも、レンタカーで好きなところへ簡単に行けるところが魅力です。「一人で生活する人へのやさしい生活環境が整備されているのも気に入っています」と高評価!

食事は自炊でチャーハン、かつ丼、ピザ、肉まん、パン(粉から作ります)など、食べたい物は何でも作りますが、

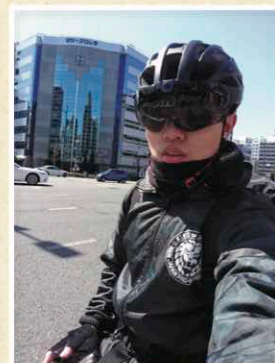
味がマンネリになるのが、難点?と自己評価。日本の食べ物では、最初、納豆のネバネバが苦手だったが、オクラなどの粘り気の少ないもので少しずつ慣れて今は好物になっているそうです。

「将来も今の仕事(眼科の管理・経営)に携わっていきますが、これはあくまでも生きるための手段です」と、とても合理的。

趣味は旅行、沖縄以外はほぼ制覇したが、いずれチャンスを作って沖縄を旅したいなどと終始流ちょうな日本語で話される笑顔が素敵な青年でした。



▲職場の同僚と(本人は右)



▲趣味のサイクリング

お知らせ

国際ふれあひフェア2022

海外姉妹・友好都市とともに 平和な世界を!!

日時: 2022年10月9日(日)
11:00~16:00

雨天決行。荒天時は10日(月・祝)順延。

場所: 浦和駅東口駅前市民広場

さいたま市の海外姉妹・友好都市の紹介を中心としたイベントです。国際交流を肌で感じることができるこの機会を通して、6つの海外姉妹・友好都市を知るきっかけ作りをしましょう!(詳しくはHPにてご確認ください)

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、行事内容に変更や中止となる場合があります。



おしゃべりサロン 参加者の皆様へ



現在おしゃべりサロンを一部再開しました。
以下のことに留意いただき参加をお願いします。

- 体調が少しでもすぐれないと思われる方は、参加をご遠慮ください。(喉の痛み、咳、発熱、倦怠感、腹痛等)
- 事前にご自宅で検温
- 筆記用具の持参
- マスクの着用
- こまめに手指の消毒
- 参加記録確認書の記入(参加ごと、毎回)
- 使用された椅子、机等を個々に消毒していただきますようお願いいたします。



9月以降のスケジュールは
HPをご覧ください。



詳細はこちら▶



公益社団法人 さいたま観光国際協会
国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルコ上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL https://www.stib.jp/kokusai

